

学位論文審査の要旨

学位申請者	辰巳 哲子 人間発達科学専攻 2014年度生		論文題目	キャリア形成における高校キャリア教育の役割
審査委員	主査:	浜野 隆 教授	インター ネット 公表	学位論文の全文公表の可否 : 可
	副査:	伊藤亜矢子 准教授		「否」の場合の理由
	副査:	富士原紀絵 准教授		<input type="checkbox"/> ア. 当該論文に立体形状による表現を含む
	審査委員:	小玉 亮子 教授		<input type="checkbox"/> イ. 著作権や個人情報に係る制約がある
	審査委員:	大多和直樹 准教授		<input type="checkbox"/> ウ. 出版刊行されている、もしくは予定されている
学位名称	博士 (社会科学) (Ph. D. in Sociology of Education)			<input type="checkbox"/> エ. 学術ジャーナルへ掲載されている、もしくは予定されている
				<input type="checkbox"/> オ. 特許の申請がある、もしくは予定されている
				※本学学位規則に基づく学位論文全文の インターネット公表について

学位論文審査・内容の要旨

本論文は、日本の高校生の卒業後の「移行」においてキャリア教育がどのような役割を果たしてきたのかを明らかにすることを目的としている。個人のキャリア形成に対して高校がどのような機能を持つのか、個人の学び・経験・意味づけという観点からはまだ検討されていない。また、従来の進路形成研究は、学校選択や職業選択に至るプロセスに焦点をあてており、個人のキャリア形成を十分に説明していない。そこで、本研究は、「高校での経験がどのように個人に意味づけられたのか」と「卒業後の適応・働く意欲・基礎力」がどのような関係になっているのかを明らかにすることを課題とした。高校卒業生に対する質問紙調査およびインタビュー調査から、次のような知見が得られた。

- ① 移行教育政策は、国や企業からの要請によってその定義や概念が変化してきている。高校キャリア教育の内容は、国の方針に応じて変化しており、「適応」「働く意欲」「基礎力」の3つの目標のもとに実施されている。
- ② 高校キャリア教育は「適応」に正の有意な影響があるが、「働く意欲」には弱いながらも負の影響がある。高校で働くことをどのようなものと意味づけたかが大学生になってからの「働く意欲」に影響していた。
- ③ 高校ですでに実施されている教育課程上の取組・高校内での経験が、集団スキルや対人スキルに影響している。文化祭などの経験が卒業後の職場での「適応」を促進している。
- ④ 高校において「他者との関係の築き方」を学ぶことが大学「適応」に影響している。
- ⑤ 高校での様々な経験は、職業選択を介して、入職後の「働く意欲」や職務成果に対して影響を与えている。
- ⑥ 「基礎力」の獲得には学校段階の経験が影響を与えており、高校での教科学習から得られたと意味づけている事柄は教科によって異なる。

第1回・第2回審査委員会(2019年12月4日、2020年1月30日)では、理論的な検討及び実証分析、用語の使用、論文の構成などについて指摘や疑問が出された。これらの指摘を踏まえて修正作業が行われ、第3回審査委員会(2020年2月18日)では、指摘事項に対して適切な対処がなされていることが確認された。2020年2月28日に行われた公開審査会においては、非常によく整理された発表が行われ、参加者からの多くの質問に対して申請者からは適切な受け答えがなされた。その後に行われた最終審査委員会(2020年2月28日)では、公開発表と質疑への応答が十分なものであったことが確認された。

以上の結果より、本審査委員会は、本論文が博士(社会科学)、Ph.D in Sociology of Education にふさわしいと判断し、合格とした。